

主 題：夫の責任

聖書箇所：ペテロの手紙第一 3章7節

父の日である今日、私がこの場に立って神のみことばを語ることはと非常におこがましいと思っています。なぜなら、私は夫になって1年2ヶ月弱、そして、父親歴はまだ4ヶ月だからです。つまり、父親としては若輩者です。ですから、むしろ、私がそちらの方に座って皆さんといっしょにみことばを聞く方が適していると思いますが、今、ここで私にみことばを語らせていただく機会が与えられたことを本当に感謝しています。なぜなら、私には責任があるからです。私が今、皆さんに神のことばを語ったときに「私はこのみことばに従います」という宣言をしたことになるからです。そしてまた、皆さんに私自身を吟味していただける良い機会にもなるからです。

さてこの父の日、お父さんである皆さんは家族のみならず「ご苦労さま、いつもありがとう！」と言われる日です。でも、私たちは本当の意味でそのように言われる者でしょうか？父の日だから取り敢えず、表面的に「お父さんいつもありがとう。いつもご苦労さま。」と言われているのではないのでしょうか？事実、この「父の日」は「母の日」が出来たその次の年に出来たのです。どちらかと言うと、「母」は感謝され易い存在ですが、「父」はどうでしょう？「んー？」と疑問符が付いてしまうようです。事実、インターネットを見ても、「母の日」は覚えているけれど「父の日」はデパートに行ったら思い出すという感じのようです。誤解しないでください。皆さんのお父さんに対する感謝の気持ちを疑っている訳ではありません。でも、本当の意味で、夫の皆さん、お父さんの皆さん、あなたは妻から家族から感謝される者でしょうか？また、皆さんは本当に家族から感謝されたいと思っておられますか？言い方を変えるなら、頼れる一家の長として感謝される男性になりたいと思いませんか？私たちはすばらしい主が求めておられるような男性、夫になって行きたいと思いませんか？私自身、そうなりたいと思います。そのことについてペテロが、神が求めておられる男性になって行くために何をしなければならないのかということ、具体的に教えてくれています。ですから、今日は皆さんとごいっしょにそのみことばを見て、学んで行きたいと思えます。Ⅰペテロ3：7「同じように、夫たちよ。妻が女性であって、自分よりも弱い器だということをわきまえて妻とともに生活し、いのちの恵みをもとに受け継ぐ者として尊敬しなさい。それは、あなたがたの祈りが妨げられないためです。」、このみことばから、私たちは「夫の責任」について学びます。そのことを学ぶことを通して、神が求めておられるすばらしい男性、夫となつて行き、私たちがその責任をしっかりと果たして行くことが出来るようになることを願っています。

☆夫の責任

1. 主を模範として仕えて行く

これは当然のことと思われるかもしれませんが、この7節を理解するためには「主を模範とすること、イエス・キリストを模範とすること」が大前提であるということをしかりと理解しなければいけません。なぜなら、この7節に至る文脈を見たときにそれが明らかだからです。ペテロは7節の文頭に「同じように、」ということばを記しています。つまり、その前に語ったことを受けてこの節があるのです。どのような話の流れからペテロはこの7節で「夫の責任」を記しているのでしょうか？それは2：11から見る事ができます。2：11-12「愛する者たちよ。あなたがたにお勧めします。旅人であり寄留者であるあなたがたは、たましいに戦いをいどむ肉の欲を遠ざけなさい。：12 異邦人の中にあつて、りっぱにふるまいなさい。そうすれば、彼らは、何かのことであなたがたを悪人呼ばわりしていても、あなたがたのそのりっぱな行ないを見て、おとずれの日に神をほめたたえるようになります。」、つまり、ペテロはこの手紙の読者に対して「あなたがたは神の民として天国民としてこの世を旅しているのです。だから、天国民として世に対してりっぱにふるまい、証をして行きなさい。」と言うのです。このように勧めて行く中でペテロは、権威のある人、王や総督、また、人の定めた制度、ルールに従いなさいと命じます。つまり、自分の置かれている国にあつて国民としてその責任をしっかりと果たして行きなさいと勧めるのです。

次いで、ペテロは人間関係について語ります。しもべたちに対しては主人に従いなさい、従順でありなさいと勧めます。それが良い主人であろうと悪い主人であろうと、不当な扱いを主人から受けたとしても、従順でありなさいとペテロは勧めるのです。正直に言って、不当な扱いを受ける時にも主人に従順であることは難しいことです。けれども、そうすることが神に喜ばれることであるゆえに、どのような不当な扱いを受けようとも従順であらうとします。また、ペテロはそのような不当な扱いを受け、苦しみを受けている兄弟姉妹に対して、だれよりも最も不当な扱いを受け苦しみを受けたキリストを思い起こさせ、キリストが模範を示してくださったということを教えています。2：21「あなたがたが召

されたのは、実にそのためです。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました。」、キリストは私たちがご自身を手本として歩むことが出来るように模範を示してくださったのです。ここで使われている「模範」ということばは「完璧な書法、筆跡を収めた習字の手本帳」というような概念があります。つまり、小学1年生がノートに薄くお手本の字が書いてあるのをなぞりますが、それによってきれいな字が書けます。字の練習のために、きれいな字を書くためにそのような練習帳がありますが、そのようなものだと思ってください。弟子が先生の書いた手本にならって注意深く書く時に良い字が書けるのです。けれども、それから外れて書いてしまうとそれは悪い字になります。つまり、キリストのお手本に私たちが従順に従って行くときに、良い人生を歩むことが出来るということを教えているのです。キリストはどのような模範を示してくださったのでしょうか？それは私たちに最も必要な罪の赦しを与えること、私たちが罪から離れ義のために生きることが出来るようになるために自ら犠牲を払われたのです。2：23を見てください。「**ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。**」、神を信頼したのです。罪のない方、周りの人々から見て何の偽りも見出すことが出来なかったお方が、最も不当な扱いを受け、私たちの必要のために犠牲を払われたのです。ペテロはこのキリストの「**足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました。**」と言います。

そのことを受けて、3章1節から、今度は妻に対する勧めがなされています。「**同じように、妻たちよ。自分の夫に服従しなさい。たとい、みことばに従わない夫であっても、妻の無言のふるまいによって、神のものとされるようになるためです。：2 それは、あなたがたの、神を恐れかしこむ清い生き方を彼らが見るからです。**」、ここでも夫への勧めと同じように、文頭に「**同じように、**」ということばが使われています。これは妻に対する神の命令です。どのような命令でしょう？「夫に従順であれ」ということです。「従順である」ということは、妻は自らの意志で夫の下へ入ることです。そこには当然、自分の思いを押さえないければならないこともあります。また、多くの犠牲を要することもあるでしょう。ですから、キリストを模範としなければいけないのです。ペテロは天国民として、異邦人の中にあつてりっぱにふるまうことを勧めていました。神を信じない人々に対して良い証をして行きなさいという勧めです。ここで妻に対しても、たとえ神に従わないであっても、妻は自らを低くし「**神を恐れかしこむ清い生き方を**」によって証が為されるということを教えています。しかし、自らを低くするということは、口で言うのは簡単ですが、実践は本当に難しいことです。先ほど見たように、キリストは私たちに最も必要な罪の赦しを与え、私たちが義に生きるためにどれ程の不当な扱いを受けて来られたでしょう？そのことを思い起こす必要があります。ペテロは夫の救いのために妻がキリストを模範とすることの大切さを教えています。キリストを模範とする女性は、自分の夫に対して相手の必要を満たすために自らを低くし、喜んで犠牲を払い夫に従おうとするのです。

けれども、このことは妻にだけ与えられた命令ではありません。夫に対しても同じことが言われています。先に言ったように、ペテロは夫に対しても、3：7の文頭で「**同じように、**」ということばを使っています。もちろん、これは「妻に従順でありなさい」という命令ではありません。では、何が「**同じように、**」なのでしょう？それは、伴侶に対する従順ではなく、主を模範として、自分を低くし自ら犠牲を払って自分の妻に仕えて行くということです。この「仕える」ということばを聞くと、多くの人は「どうして？夫は一家の長、リーダーではありませんか？」と思われるかもしれません。確かに、夫は妻のかしらであると聖書は教えています。神が私たち人間を造られたとき、女性には男性の助け手としての役割が与えられました。そして、男性にはリーダーとしての役割が与えられています。そのことは皆さんよくご存じのことでしょう。パウロはエペソ5：23でこのように教えています。「**なぜなら、キリストは教会のかしらであって、ご自身がそのからだの救い主であられるように、夫は妻のかしらであるからです。**」、男性はリーダーであり、女性はアシストと聞くと現代の風潮にそぐわないと思われるかもしれません。確かに、今は女性が男性よりも、また、夫よりも妻が権威を振るうような時代です。現在の多くの教会でも、兄弟たちよりも姉妹たちの方が意欲的で活発であるように見えます。けれども、神が定められた秩序は男性がリーダーです。たとえ、それがどんなに理にかなったことであつたとしても、女性が男性から権威を奪うなら、結局、そこには問題と混乱が生じるだけです。

世の中は、リーダーは人の上に立ってあれこれ指示をする者である、ボス的な存在だと考えがちですが、聖書的に考えるなら、リーダーは人の上に立つのではなく、人の下に自らを置く者です。イエスはこのように教えてくれています。マタイ20：25－28「**そこで、イエスは彼らを呼び寄せて、言われた。「あなたがたも知っているとおりに、異邦人の支配者たちは彼らを支配し、偉い人たちは彼らの上に権力をふるいます。：26 あなたがたの間では、そうではありません。あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、みなに仕える者になりなさい。：27 あなたがたの間で人の先に立ちたいと思う者は、あなたがたのしもべになりなさい。：28 人の子が来たのが、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価とし**

て、自分のいのちを与えるためであるのと同じです。」、事実、イエスご自身も弟子たちの足を洗い、自らを下に置かれました。低くなられたのです。ヨハネ 13：13－15を見ましょう。イエスは弟子たちの足を洗った後、このように言われました。「あなたがたはわたしを先生とも主とも呼んでいます。あなたがたがそう言うのはよい。わたしはそのような者だからです。：14 それで、主であり師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのですから、あなたがたもまた互いに足を洗い合うべきです。：15 わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしはあなたがたに模範を示したのです。」

リーダーとは仕える者でなければいけません。つまり、夫は妻のかしらとして仕える者でなければいけないのです。それが主であるキリストの模範です。でも、「仕える」とひとりで言っても、具体的にどのようにすればいいのでしょうか？ペテロはそのことについても教えています。この I ペテロ 3：7には二つの命令が記されています。一つは「ともに生活する」ことであり、もう一つは「尊敬する」ことです。ですから、夫の責任の一つ目は「主を模範とする」こと、そして、二つ目は

2. 相手とともに生活すること

夫の責任は「妻といっしょにいる」ことです。相手といっしょにいるというのは、単に、同じ空間にいるということではありません。ペテロはこのように言っています。「妻が女性であって、自分よりも弱い器だということをわきまえて」と。原文ではこの「弱い器だということをわきまえて」には「知識に従って」ということばが使われています。つまり、ペテロはこの手紙の読者、特に男性たちに、あなたがたがもうすでに知っている妻に対する知識をもって、妻とともに生活しなさいということを教えているのです。

「女性が弱いから」というのは女性が男性よりも劣っているということを意味しているのではありません。また、女性が弱い存在だから神が女性を愛していないということでもありません。聖書は決して、神は男性を愛し、女性が少し劣っているから愛していないとは教えていません。神は男性も女性も同じように愛し、男性であろうと女性であろうと同じように救ってくださいます。ガラテヤ 3：28には

「ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由人もなく、男子も女子もありません。なぜなら、あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって、一つだからです。」と教えられています。神の前にあってはすべてが平等です。けれども、神が備えられた働き、責任は男性と女性では違っています。それゆえに、女性がどのような存在であるのかということを知り、夫の皆さんが知っているなら、その通りに、男性は紳士的な態度を持たなければいけません。紳士的な態度を取るためにはどうすれば良いのでしょうか？

◎紳士的であるために

1) 相手を理解すること

それにはまず「相手を理解する」ことです。事実、女性は力において、肉体的に弱い者です。また、聖書的な立場であれば、女性は男性に従わなければならない立場にあります。そのことを考えると、妻はクリスチャンであってもクリスチャンでなくても、男性に従わなければいけないのです。ゆえに、ペテロが言うように、女性は弱い器であるから、男性は女性を理解する必要がある、夫は妻を理解する必要があると教えるのです。ですから、夫は妻が何を必要としているのかを知る必要があります。それだけでなく、どのようなことに不安を感じているのかも知る必要があります。また、どんなことに不満を感じているのか、何が好みで何が嫌いか、何が得意で何が苦手なのか、それらを知る必要があります。夫の皆さん、ご自分の妻のことをどれくらい知っておられるでしょう？妻がどのようなことを求めているのか知っておられますか？相手のことを知るためには、相手と多くの時間を取って話し合うことが必要です。夫である皆さん、妻のことを知るためにどれ位定期的に時間を取って話し合っておられますか？確かに、仕事の疲れもあって家に帰るともう休みたいと思うでしょう。それでも妻と話をすることは必要なのです。「もう結婚生活が長いので大抵のことは知っているから」と、話をすることが年々減っているということはないでしょうか？この「相手を知る」ということは、私のような新婚さんがすることですと思わないでください。今現在、自分のパートナーが何を思っているか、何を感じているか、夫の皆さんはご存じですか？どの世代であっても、どれだけ長い年数いっしょにいたとしても、相手を理解することは大切です。

2) 相手の必要を知ってそれを満たそうとする

でも、単に相手のことを理解すれば良いというわけではありません。相手のことを知ろうとしないことは正しくありませんが、相手の必要を知っても、その必要を満たそうとしないことはさらに悪いことです。ですから、相手といっしょにいるということは、確かに、相手を理解することが必要になって来ますが、それだけでなく、相手の必要を満たすことを夫の皆さんは知って行かなければいけません。女性は男性よりも弱い器であることを男性は知っているのですから、自らを犠牲にして、妻の必要を満たして行かなければいけないのです。社会に出ているお父さんたちには、確かに、自らを犠牲にして妻の必要を満たすというのは非常に大変なことです。世の中ではこのようなことを頻繁に聞きます。「たまの休日ぐらい休ませてくれよ」と。世間のお父さんたちの本音でしょうか？確かに、男性は社会の中で大変

な仕事をしておられるでしょう。でも、そのことばを聞いて、一般的に女性からは「いえいえ、主婦には年中休みはありませんよ」という答えが返って来ることでしょう。

けれども、私たちクリスチャンがこのことを考えるとき、最初に見たことを思い出さなければいけません。キリストは私たちに最も必要な罪の赦しを与えるために何をしてくださったのでしょうか？Ⅰペテロ 2：22-24にそのことが書かれています。「キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。：23 ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。：24 そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、**私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。**」、キリストは自らを犠牲にして私たちの必要を満たしてくださいました。神が求めておられることは、キリストを模範とし、キリストが教会を愛されたように妻を愛するということです。エペソ 5：25「**夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。**」、キリストはことばだけでなく行ないをもってその愛を示してくださいました。男性である私たちも同じように、妻の必要を満たすために妻に仕えなければいけません。

具体的に实际的にどのように満たすのかは、各家庭によって違いがあると思います。けれども、自分の妻が何を必要としているのかということを知って、その必要を満たさなければいけないのです。それだけでなく、どのようなことに対して不安を感じているのかを知ったなら、どのようにしてその不安を取り除いてあげるのかを考え、その不安を取り除くために実際に動かなければいけません。また、同じように、どのようなことに対して不満を感じているのかを知ったなら、夫はその不満をどうするのか、解消出来るように務めて行かなければいけないのです。それは实际的に肉体的な必要だけでなく、霊的な面の必要もしっかりと満たして行くように努めて行かなければいけません。

3) 妻の信仰を導き助けて行くこと

夫は妻の信仰を導き励まし、妻が成長して行くことができるように教えて行かなければなりません。妻の様々な必要を満たすことに努力しないのであれば、神の前に良い夫であるとは言えないでしょう。パウロは厳しいことばでそのことを教えています。Ⅰテモテ 5章にはパウロがテモテにやもめに対してこのようにしなさいと教えている箇所ですが、その文脈の中でこのようにあります。Ⅰテモテ 5：8「**もしも親族、ことに自分の家族を顧みない人がいるなら、その人は信仰を捨てているのであって、不信者よりも悪いのです。**」と。妻の抱えている必要は、肉体的に霊的に、また、情緒的に様々なものがあります。それらすべての必要を夫は知って、そして、実際にその必要を満たすように努めて行かなければいけません。これがペテロが教えている「相手とともに生活する」ということです。

これまでに見て来たことは夫に対して語られていますが、その原則の幾つかは夫だけがしなければならないことではありません。主を模範とし、自らをへりくだらせ、仕える者になるということは夫だけがすれば良いものではありません。また、相手のことを知り、相手の必要を満たして行くということも同じです。これは妻であっても、青年、中学生、高校生であってしなければいけない愛の行為です。すべての人がしなければいけないことです。確かに、ここで言われていることは「夫に関して」です。夫に対して相手とともに生活しなさい、いっしょにいなさいと言っているのです。夫の皆さん、最初に話したように、同じ空間に居れば良いというものではありません。同じ空間にいても夫婦がそれぞれ別のことに専念しているということはないのでしょうか？その時間が長くないのでしょうか？夫婦であるのにお互いに相手に関して知らないことが溜まっているということはないのでしょうか？

ペテロは夫の責任として「ともに生活をしなさい」、いっしょにいることを勧め、命じています。そして、ペテロが二つ目に命令すること、つまり、「夫の責任」の三番目です。

3. 相手を尊敬すること

ペテロは夫に対して、妻を「**いのちの恵みをともに受け継ぐ者として尊敬しなさい。**」と教えています。このことばは大きく分けて二つの解釈があります。一つは、妻がクリスチャンであり、ともに主に愛され救いを受けた者として尊敬しなさいと教えているという考え方です。もう一つは、結婚を通して夫婦は一つにされた、そして、ともにいのちを受け継ぐ恵みを受けたのだから、そのような者として妻を尊敬しなさいと教えているという考え方です。もし、これが救いであれば「**いのちの恵みをともに受け継ぐ者として**」という節は、クリスチャンの男性がまだ信仰をもっていない女性と結婚することによってその女性が救われることは有り得ないことです。ここで教えられているのはクリスチャンの妻に限定されていることとなります。けれども、「**いのちの恵みをともに受け継ぐ者として**」ということが結婚を指してそのように言っているなら、妻がクリスチャンであっても、まだ信仰をもっていない妻であっても、そのどちらにも当てはまることとなります。さらに、文脈を考えたときに、2：11から見て来たように、ペテロはクリスチャンに対して「**異邦人の中であって、りっぱにふるまいなさい。**」（2：12）と教えています。つまり、天国民として周りの人々に正しい証をして行きなさいという教えから始まって、それが今

見ている3：7まで続いているのです。2：13－17では自分の置かれている地域において、その責任をしっかり果たすようにと教えられています。続く18－20節では、しもべに対して良い主人であろうとたとえ正しくない主人であっても、従順であるようにと勧めています。そして、21－25節まで、ペテロはキリストの模範を挿入的に記して、3：1－6には妻に対して夫に従順であるようにと勧めるのです。そして、「同じように、」ということばで始まるこの7節はクリスチャンの夫であろうと、また、みことばに従わない夫であっても、妻は夫に従順でありなさいと求められているのです。これらの文脈から考えたとき、ここで教えられている夫に関する教えは、クリスチャンの妻であろうと、また、みことばに従わない妻であっても、妻を理解し、妻の必要を満たし、ともに生活し尊敬しなさいということです。特に、この後に続くことばを考えると、みことばに従わない妻、つまり、まだ信仰をもっていない妻に重きを置いてペテロは語っているように思います。このことに関しては後で見に行きます。

以上のことから、ここで教えられているこの「いのちの恵みをともに受け継ぐ者として」とは、結婚によって夫婦が一つにされ、ともにいのちに関する恵みを受ける者であるから、その妻を尊敬しなさいペテロは教えていると考えます。結婚を通して夫婦は一つになりました。ふたりは一つなのです。ですから、夫は自分のからだのように妻をいたわり、最も大切な貴重な存在として扱わなければいけません。自分の妻を本当に価値のある、かけがえのない者として接することが求められるのです。ですから、決して次のようなことがあってはいけません。妻に対して横柄な態度を取ること、食事を作ってくれるのは当然、掃除、洗濯をするのも当たり前という態度、また、他の人と比べることや妻の能力的な欠点を指摘して、自分の理想的な女性になるようにと仕向けることなど…。けれども、妻にとってそのような扱いはどうでしょう？自分は見下されていると思うかもしれません。また、人前で妻を注意したり責めたりすること、からかったりすることもその通りです。これらの行動、態度は決して妻を尊敬する態度とは言えません。夫である私たちにとって、神を除いた存在の中で最も愛すべき者は自分の妻です。イエス・キリストを除いた存在で、人生における最良の価値のあるパートナーは妻です。妻は私の最高の助け手である、だから、尊敬しなければならない存在なのです。これはクリスチャンの妻であろうとそうでなかろうと同じように「妻を尊敬する」のです。夫である皆さん、ご自分の妻を尊敬していますか？尊敬しているなら、その尊敬をどのように表わしておられますか？いろいろな面で助けてもらっていることに対して感謝をしているのでしょうか？実際に、口に出して目を見て「ありがとう！」と言っているのでしょうか？毎日の食事や家事全般に対して、「ありがとう」と声に出して言っているのでしょうか？また、妻がしたことに対して誉めていますか？もちろん、逆もしかりです。つまり、妻も同様に夫に対してそのようにするのが良いのです。

私たちは今日、「夫の責任」ということで、それは、「主を模範とすること」であり、そして、ペテロの二つの命令、「相手と一しょにいること」、「相手を尊敬すること」について見て来ました。ペテロがこれらの命令をするには理由があります。それがこの7節の最後に書かれています。「それは、あなたがたの祈りが妨げられないためです。」と。夫であるあなたの祈り、私たちの祈りとは何でしょう？ここでペテロが言っていることは、まだ、信仰をもっていない妻に重きを置いているとするなら、この祈りは「妻の救い」に関して祈っていると言えます。ペテロは夫であるあなたがどれ程切に妻の救いを祈っているとしても、夫のあなたが主を模範とせず、妻のことを理解せず、妻の必要を満たそうとしない、また、妻を尊敬しないのであれば、その祈りは聞かれるのでしょうか？と言うのです。もちろん、人を救ってくださるのは神です。けれども、その祈りを妨げているのは夫自身の生き方ではないですか？と言うのです。また、ここで言われているのがクリスチャンの妻であったとしても、同じことが言えます。夫である私たちが、妻の霊的な成長を願って祈っても、私たちの生き方が主を模範とせず、妻のことを理解せず、妻の必要を満たそうとしない、また、妻を尊敬しないのであれば、その祈りは聞かれるのでしょうか？これももちろん、成長させてくださるのは神です。けれども、私たちの生き方によって悪い模範を示し、妻が夫に従うことが難しい状況を作り出してしまっていることはないのでしょうか？もちろん、妻の皆さんはこのことを言い訳にして、だから、従わなくても良いと言うことは間違っています。ですから、妻がクリスチャンであれば妻の霊的成長のために祈り、妻が救われていないのであれば、妻の救いのために祈って行くなら、当然、家庭のリーダーである夫の私たちが、主を模範とし、妻を尊敬し気遣い、その必要を満たして行くことになるはずです。そこには、夫として、家庭のリーダーとして、家族に良い模範を示し、証を為して行くことが出来るのです。

今回、私たちはこのみことばから「夫の責任」について学びました。私たちがこの責任を果たして行くことを通して、私たちは神が求めておられるすばらしい男性、夫になって行くことが出来ます。そして、「父の日」には私たちお父さんは、本当の意味で、家族から、妻から「いつも私を理解してくれて、必要を満たし続けてくれてありがとう！」と言われるようになると思います。「父の日」だからでなく、日々の生活の中でそのことばが妻の口から出て来るのではないのでしょうか。なぜなら、このみことばを

実践するときに、夫である私たちは頼れる一家の長として感謝されやすい男性へと行って行くからです。父として家族に良き証を為しているのでしょうか？また、良き模範を示しているのでしょうか？夫である私たちが、妻が夫に従うという神の命令を妻が行ない易い者になっているのでしょうか？

正直、私がこの場でこれらのことを語ることは、非常に足りないところばかりの者です。けれども、初めに言ったように、私自身、このみことばに従い、主を模範として、自分の妻を尊敬し理解し、その必要を満たして行くことが出来るようにと祈りつつ、求めて行きたいと思っています。そのように変わって行きたいと思っています。お父さんの皆さん、ぜひ、ごいっしょにそのことを祈りつつ励んで行きましょう。